

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市在宅医療・介護連携推進会議 第9回連携体制等に関する部会		
事務局 (担当課)	在宅医療・介護連携支援センター 電話042-769-9250(直通) 医療政策課 電話042-769-9230(直通)		
開催日時	令和5年7月13日(木) 19時30分～20時45分		
開催場所	Web開催 及び ウェルネスさがみはら 3階 集団指導室		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)	
	その他	0人(別紙のとおり)	
	事務局	10人(在宅医療・介護連携支援センター所長、外9人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	<p>1 開 会</p> <p>・委員の変更について</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 第9期相模原市高齢者保健福祉計画について</p> <p>(2) 在宅医療・介護連携市民講演会について</p> <p>(3) 地域密着型サービス等意見交換会について</p> <p>(4) 在宅医療・介護連携事例等発表会について</p> <p>3 そ の 他</p> <p>(1) 共生社会の実現を推進するための認知症基本法の概要について</p> <p>(2) もしバナゲーム体験会について(報告)</p> <p>4 閉 会</p>		

議 事 の 要 旨

1 開 会

- ・委員の変更について

相模原市訪問看護ステーション管理者会 吉澤委員の退任に伴い、令和5年4月1日より比留間氏が委員に加わった旨、事務局より説明した。

2 議 題

(1) 第9期相模原市高齢者保健福祉計画について

事務局より資料に基づき、説明した。

○質疑、意見なし

(佐藤部会長) 事前に郵送されている資料について、意見があれば、事務局へ回答をお願いしたい。

(2) 在宅医療・介護連携市民講演会について

事務局より資料に基づき、説明した。

(佐藤部会長) 新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては開催しない可能性はあるのか。

(事務局) あじさい会館の定員は350人となっているが、半分の定員で開催することや、場合によっては中止にすることなどを含め、今後の状況を見て判断したい。

(佐藤部会長) 開催の判断は事務局に一任することにしたい。

(3) 地域密着型サービス等意見交換会について

事務局より資料に基づき、説明した。

(佐藤部会長) 早めに開催の告知をしていただくことをお願いしたい。

(4) 在宅医療・介護連携事例等発表会について

事務局より資料に基づき、説明した。

(佐藤部会長) 委員にはテーマ案1と2の内、どちらが良いかご意見をいただきたい。また、発表者とコーディネーターについてもご意見をいただきたい。どちらかでいいと思うがどうだろうか。

(大塚副会長) アンケートの結果も踏まえ、案1を取り上げていただけると、前回とのテーマの違いを際立たせることができると思う。

(水上委員) アンケート結果から、多職種連携の案1でよいと思う。好事例を取り上げるのもいいが、在宅医療の患者が、救急搬送されてくるなどの事例もある。訪問医療の先生に発表していただくのもいいが、病

院協会から急性期の先生にお願いして、うまく在宅支援につながった例と逆に在宅から病院に搬送される事例などについて発表していただくのはどうか。

(廣瀬委員) 病院協会でも同じテーマを話し合っている。病院協会での視点としては、救急を受けた後の、在宅への返し方がわからないということで、在宅に返すのがうまい病院は何がうまいのか、アンケート調査を実施しはじめたところ。

救急側の先生と、在宅に返すことが得意な病院をピックアップして、病院協会の委員の先生方の許可が得られれば、10月の開催に向けて情報を提供できると思う。

(佐藤部会長) 廣瀬委員は案1に賛成でよいか。

(廣瀬委員) 案1でよい。

(田中委員) 案2は市民講座で話題が被ってしまうこともあり、アンケート結果を踏まえ、案1のほうがよいと思う。食事のことにに関して、何か絡めればと思う。

(澤田委員) 案1でよい。薬剤師の中でも薬薬連携を取っているが、病院の薬剤師と調剤薬局(在宅)の薬剤師で連携取るのが課題だと感じている。

(佐藤部会長) 調剤薬局や病院の薬剤師は呼べるのか。

(澤田委員) 呼べる。

(佐藤部会長) 病院と調剤薬局の薬剤師でどちらが声を上げたいのだろうか

(澤田委員) どちらもだと思う。

(佐藤部会長) 薬剤師は事例を聞くというよりは、日々の業務で思うことを聞くということがいいですかね。

(比留間委員) 案1がいいと思う。ここ数年はコロナ禍で退院前カンファレンスができなかったが、その中での工夫が病院や訪問看護師から聞けると思う。

(佐藤部会長) 訪問看護師の方から、どなたか推薦いただきたい。

(斉藤委員) 案2が面白いと思ったが、重複してしまうことを考えると、案1がいいと思う。病院から在宅への移行支援として、相模原市では看多機が開設してきており、看多機を利用して在宅に返すということがあるので、案1に看多機に入っただけのも面白いかもしれない。病院から在宅に返すに向けて様々な方法があるので、それを発表していただくのもいい。

(佐藤部会長) MSWの会からどなたか推薦いただきたい。

(佐藤部会長) 土田委員が所用で欠席のため、電子メールで発言をいただいたので、代読します。「どちらもいいと思います。直近関わった退院支援か

ら看取りのご利用者様は、ご家族がお仕事をしながらの看取りであり、随時対応型訪問介護看護さんの頻回な訪問の対応により、ご家族が仕事を諦めることなく、利用者の自宅でも看取りができた事例がある。」

(佐藤部会長) ケアマネさんが発表してくれる方がいるか、後ほど確認したい。

(日高委員) 案2も良いと思うが、案1のほうが有用と思う。退院後サービスを提供する事業者も、入院中に本人と会えないことも多くあった。入院中唯一会えるケアマネがどのように情報収集してスムーズに在宅へ繋げる工夫をしたかということもある。

(佐藤部会長) 発表者を出すことはできるか

(大塚委員) 施設側から出すということであれば、打診してみないとわからない。

(澤野委員) 案1が良いと思う。老人保健施設の立場から言えば、医療機関からの紹介もあるが、在宅から老健に入り、在宅に戻る事例も多々ある観点からも案1が良い。

(矢口委員) 案1が良いと思う。コロナ禍でご本人を見ない中で在宅を迎えることがあり困難もあったため、そういった事例を共有できればいいと思う。

(荒川委員) 案1が良い。我々は在宅の受け手側だが、医師やSW、薬剤師などの在宅へ返す立場の他職種の意見や課題を聞いてみたい。

(佐藤部会長) 発表者に関しては、事務局で絞り込んでいただきたい。

(事務局) それでは、案1で進めさせていただく。

3 その他

(1) 共生社会の実現を推進するための認知症基本法の概要について

事務局より資料に基づき、共生社会の実現を推進するための認知症基本法の概要について説明した。

○質疑、意見なし

(2) もしバナゲーム体験会について (報告)

事務局より資料に基づき、もしバナゲーム体験会について報告した。

○質疑、意見なし

・議題 (4) についての補足

(水上委員) 先ほどの議題 (4) では、あえて否定的な意見を述べさせていただいたが、各委員からも意見が多く出てよかった。土田委員から好事例頂けたこと、アンケートの中での支援困難の看取りについて話が

できそうだ。比留間委員の話に合ったように、コロナ前後では、病院でカンファレンスができない状況があった。今後、如何に病院にいる間に在宅支援の準備ができるかという観点から考えると、MSWや薬薬連携などの在宅支援に関わるどころなど幅広く他職種からの意見を聞けるとよい。

・新型コロナウイルス陽性者発生時の事故報告書について

(比留間委員) 質問だが、コロナウイルスが5類に変更されたが、陽性者の報告について質問したい。介護保険関係については福祉基盤課で、陽性者を事故報告として上げるよう言われている。訪問看護ステーションとしては「事故」というのに疑問だ。せめて、事故報告書の書式を変えてはもらいたいのだが、どこに声を上げたらいいかわからない。

(福祉基盤課 林課長) 現在は法律に則って対応している。様式については持ち帰って検討するが、報告については今までのように報告してほしい。

(比留間委員) 書式を書きやすいように配慮願いたい。

(佐藤部会長) 施設に関しては、保健所ではクラスター把握のためやっているところはあある。

(比留間委員) クラスターに関して、保健所では、10人以上の感染で報告と指示されたが、訪問看護ステーションでは職員が10人いないところもある。その場合の報告の義務がないとのことだが、どうすべきだろうか。

(佐藤部会長) 施設判断で保健所に報告すればいいと思う。保健所がどう判断するかについては、保健所に任せればいいと思う。

(比留間委員) 訪問看護の管理者会でも、そのように報告をする。

・全体の総括

(大塚副会長) 全体を通しての感想だが、印象に残ったのは多職種連携であった。これはトレンドの話題ではなくて、在宅医療では以前からずっとテーマになっている。最近、話題に上がったのはコロナ禍で情報共有や連携が取りにくくなったことがあると思う。

医療と福祉現場では、どのように情報共有していくかは、改めて話し合っていく必要はある。

ACPについては、考え方について知るきっかけの提供が少ないと感じている。また、知った後のことがこれからテーマになってくると思う。今後は、具体的にどのようにACPを進めていくかという

事を考えていく必要がある。

5 閉 会

※原則、審議と関係のない発言、単純な言い間違いなどを除き、発言者及び発言内容を記載する。

(別紙)

令和4年度 相模原市在宅医療・介護連携推進会議
第9回 連携体制等に関する部会 委員出欠席名簿

No.	氏名	所属等	備考	出欠席
	大塚 小百合	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	副会長	出席

No.	氏名	所属等	備考	出欠席
1	水上 潤哉	一般社団法人相模原市医師会		出席
2	廣瀬 憲一	公益社団法人相模原市病院協会		出席
3	田中 雄一郎	公益社団法人相模原市歯科医師会		出席
4	澤田 弘之	公益社団法人相模原市薬剤師会		出席
5	阿部 徳子	公益社団法人神奈川県看護協会相模原支部		欠席
6	比留間 由美子	相模原市訪問看護ステーション管理者会		出席
7	斉藤 正和	相模原市医療ソーシャルワーカーの会		出席
8	土田 陽子	さがみはら介護支援専門員の会		欠席
9	日高 明夫	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
10	澤野 将文	相模原市介護老人保健施設協議会	職務代理	出席
11	矢口 君代	地域包括支援センター		出席
12	佐藤 聡一郎	一般社団法人相模原市医師会	部会長	出席
13	荒川 雅子	一般社団法人相模原市医師会 (訪問看護ステーション)		出席